参考資料2

防災コンパクト先行モデル都市における防災指針の作成事例

災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（南陽市）

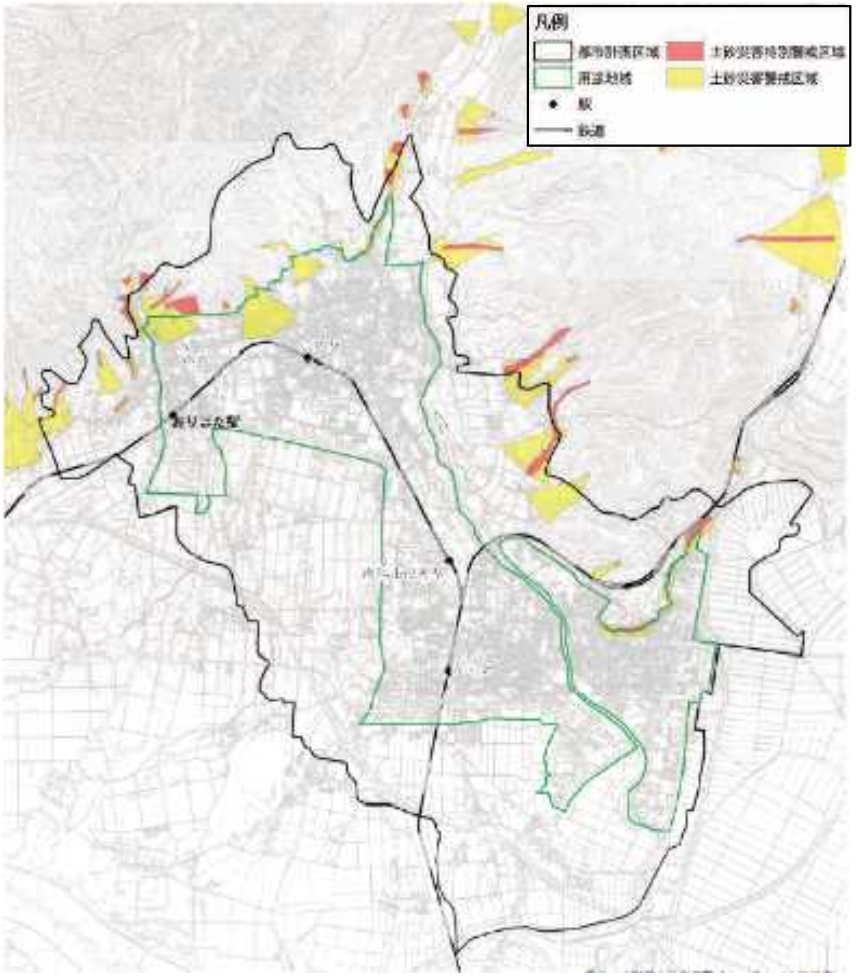
国土交通省

○市南部の平野部に市街地が形成され、その北側斜面には土砂災害リスクが、市南部を流れる最上川の支川（吉野川、織機川）が市街地を流れ洪水浸水リスクが広く分布。
○吉野川沿いでは、市街地内において浸水深2.0m以上の区域が点在。

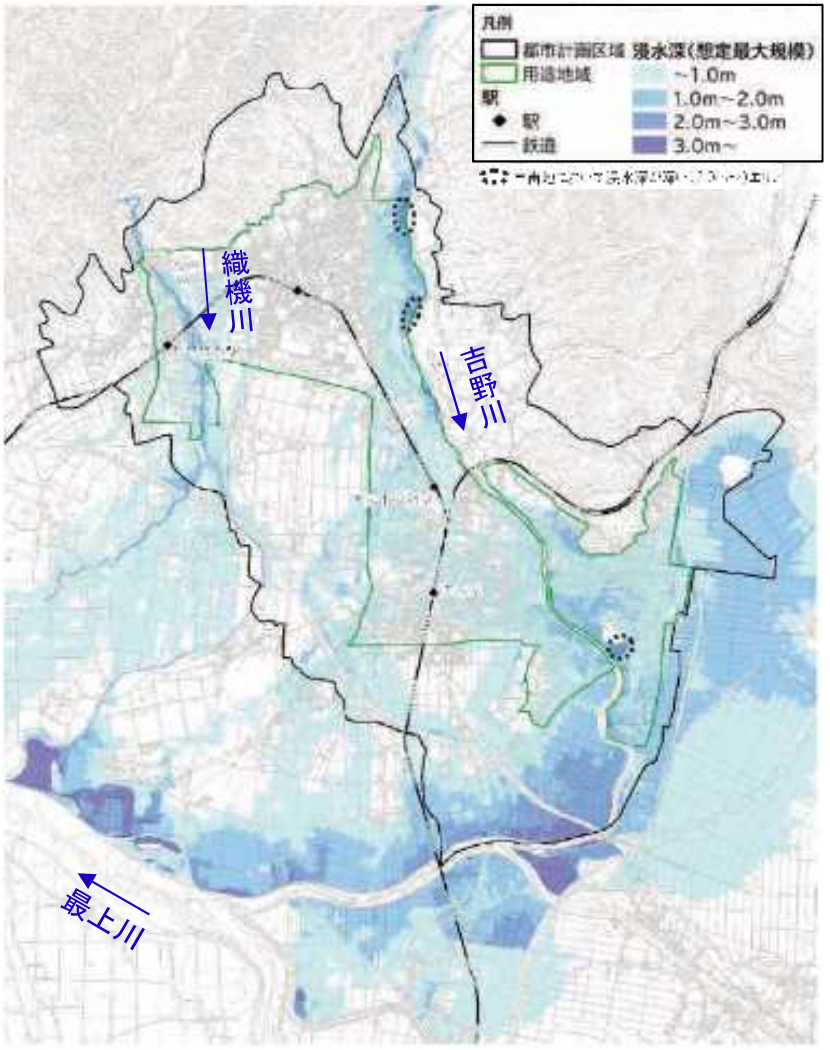
■位置図

南陽市国土利用計画より

■土砂災害警戒区域等の状況



■洪水浸水想定区域の状況（想定最大規模）



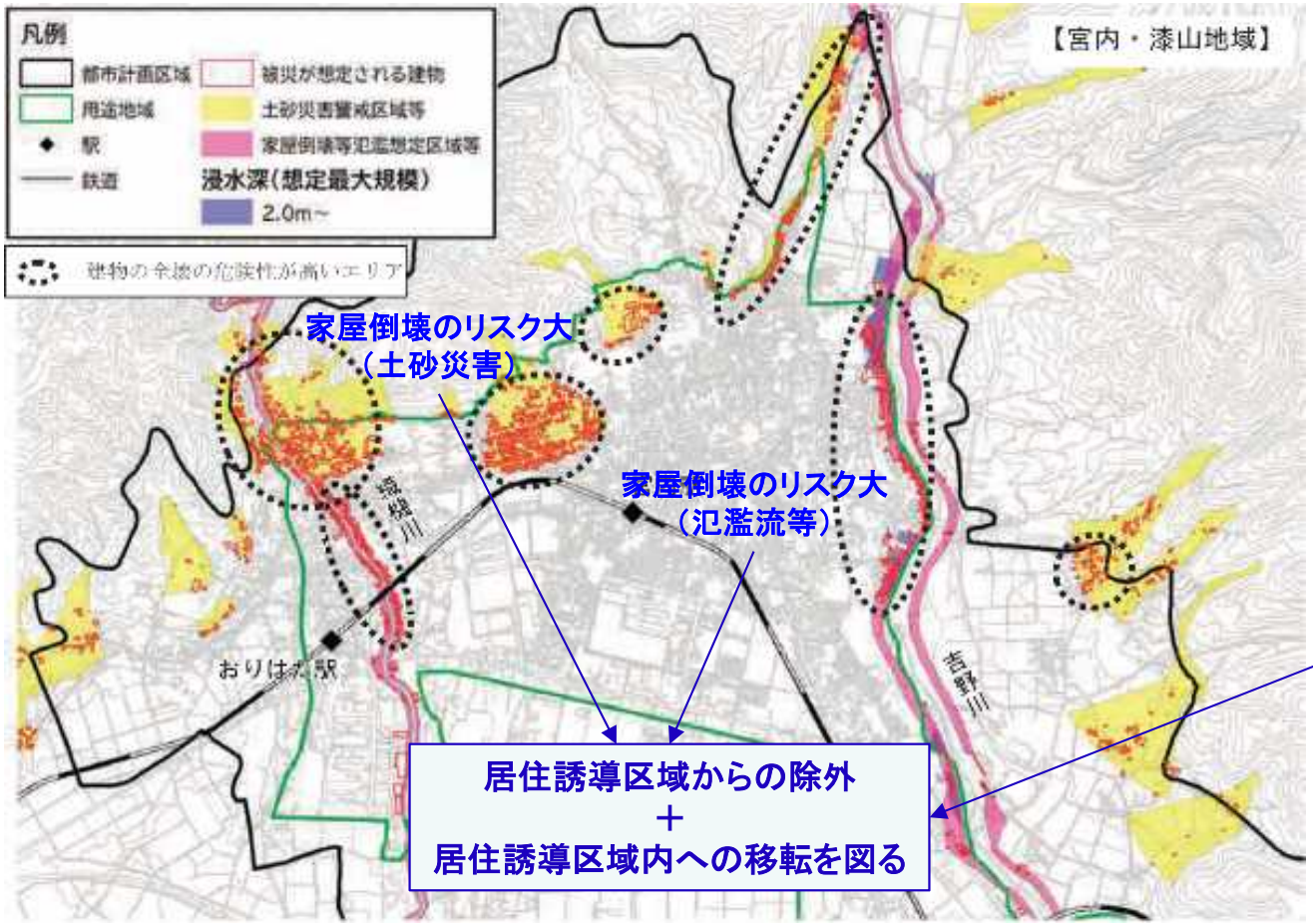
災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（南陽市）

国土交通省

〇リスク分析において、災害ハザードエリア内の住居の分布を詳細に確認。
〇土砂災害警戒区域や、想定浸水深2.0m以上のエリア、河川の氾濫等により家屋倒壊等のおそれがあるエリアなど、災害リスクの高い箇所を居住誘導区域から除外。
〇併せて、居住誘導区域内への移転を図ることや、避難施設・避難路の充実を防災指針に位置付け。

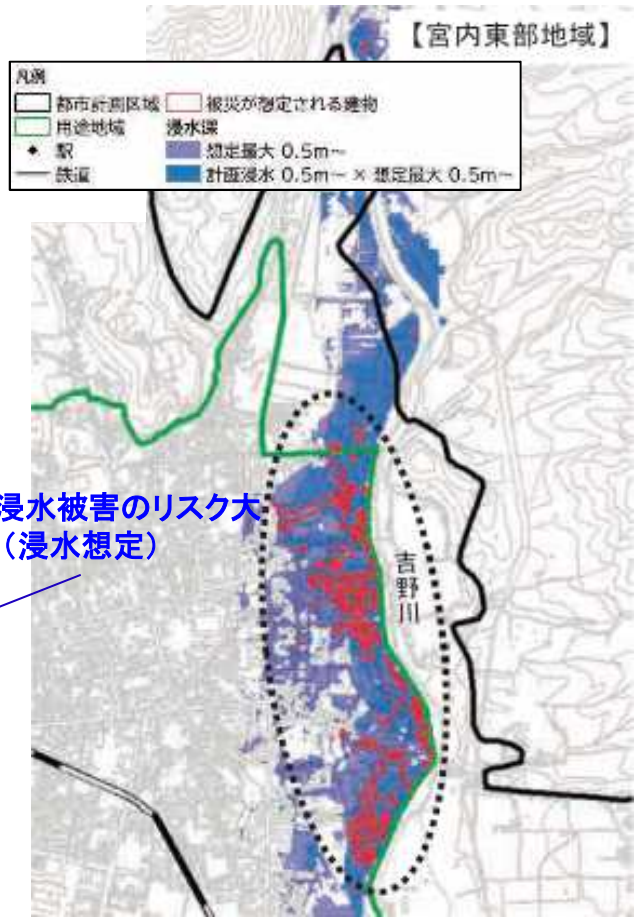
災害リスク分析

（住宅密集地×土砂災害計画区域等）



災害リスク分析

（住宅密集地×洪水浸水想定区域（想定最大×計画規模））



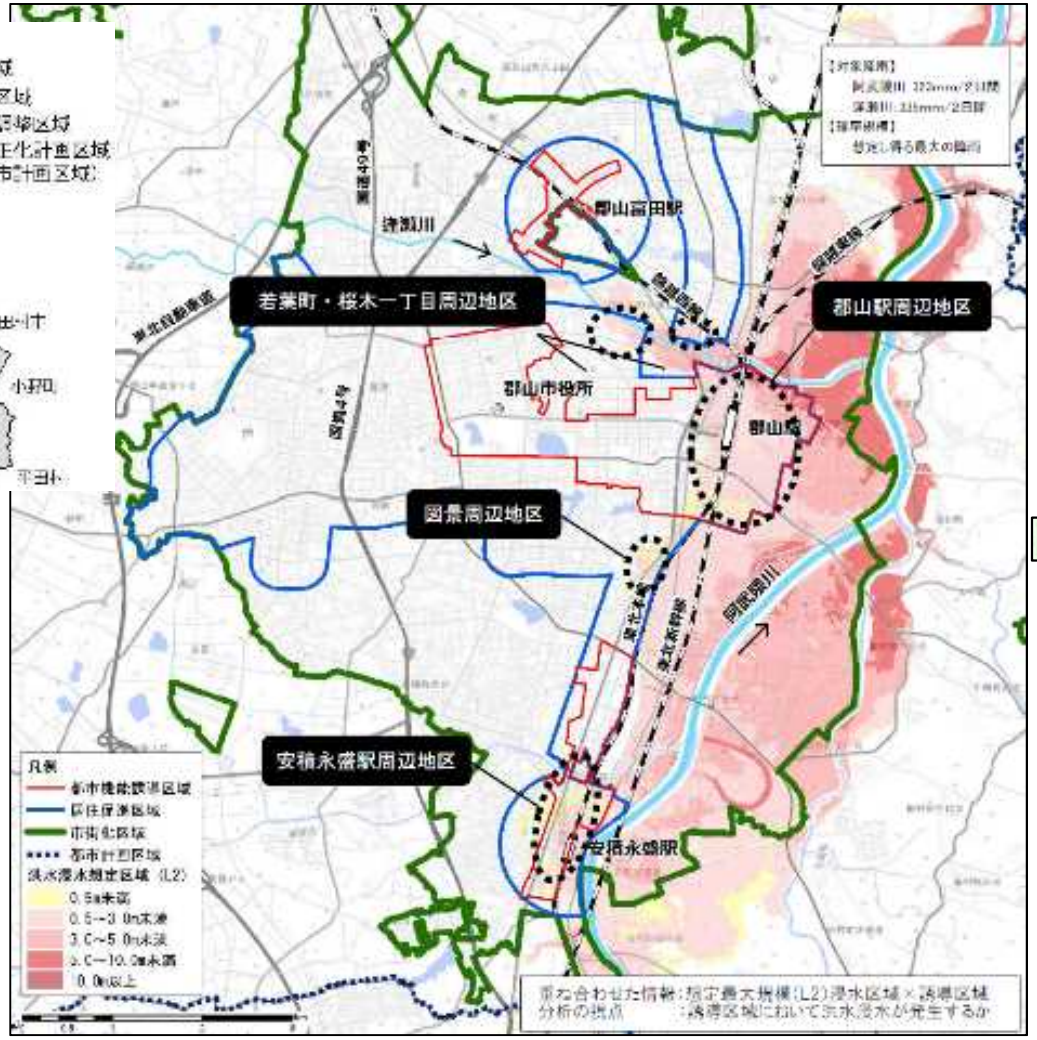
災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（郡山市）

国土交通省

〇市街地近傍を阿武隈川が流れ、洪水浸水想定区域が郡山駅など市街地中心部に指定。
〇令和元年東日本台風の大雨では、駅周辺の都市機能誘導区域内においても浸水被害が発生。
（市では平成31年3月に立地適正化計画を作成・公表済）

■位置図

■洪水浸水想定区域の状況（想定最大規模）



■令和元年東日本台風における郡山駅周辺の浸水状況

災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（郡山市）

国土交通省

○想定浸水深と建物の階数情報を重ね合わせ、垂直避難が困難な建物や浸水時に孤立のおそれのある施設の分布など、避難上の具体的なリスクを確認。
○まちの中心地であり都市的土地利用の必要性が高く、誘導区域の設定は維持しつつ、居住エリアの安全性強化のため、災害の種別・程度に応じた具体的な取組を防災指針に位置付け。

災害リスク分析（建物階数情報×洪水浸水想定区域）

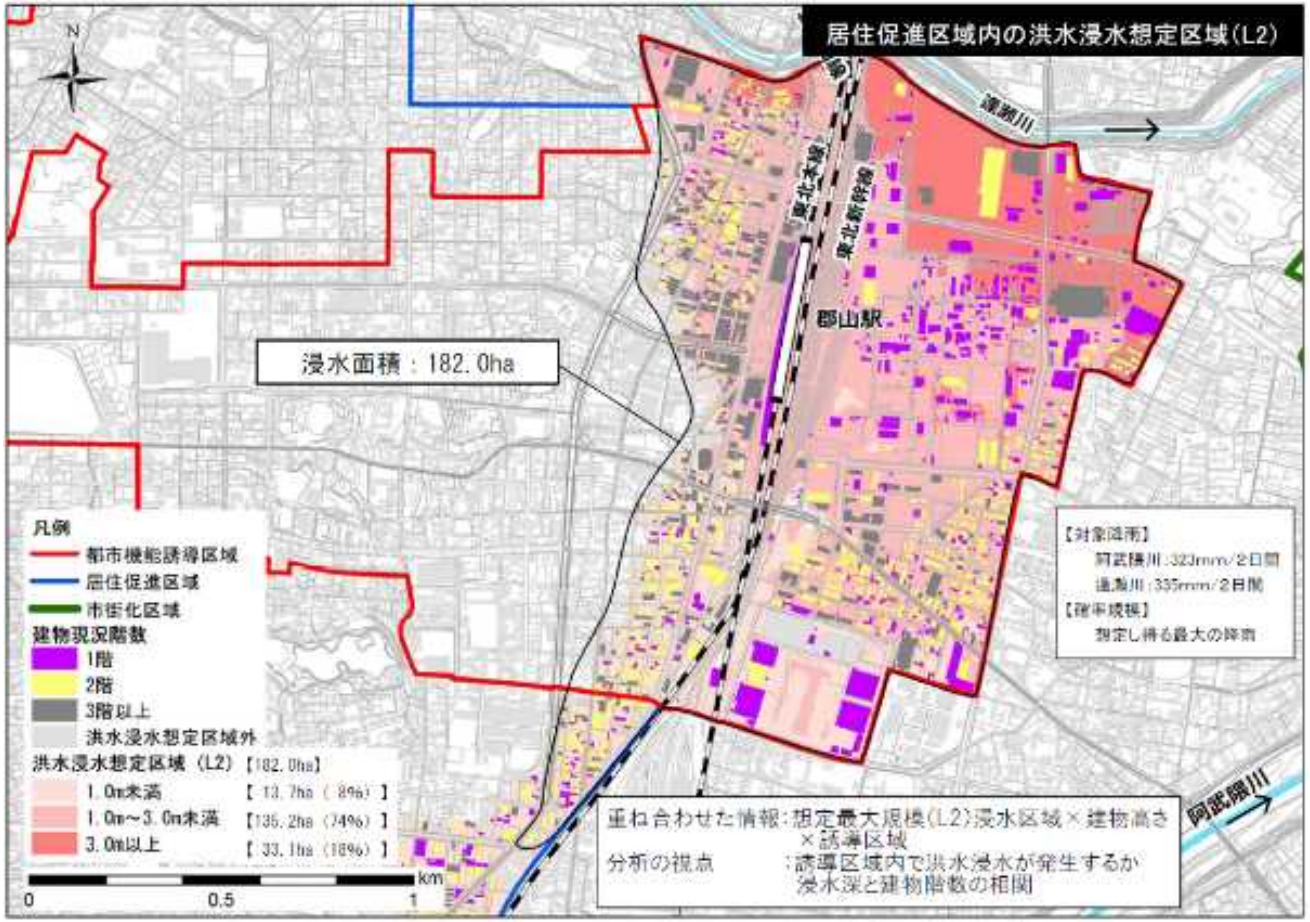


図　洪水浸水想定区域における浸水深別面積の割合と建築物高さ

安全性強化の取組

■洪水（計画規模：L1）
- 河川の河道掘削等により浸水リスクを低減
- 災害リスク低減のための建物構造の工夫（ピロティ化等）や盛土等の支援策の検討
- 河川水位等の監視強化

■洪水（想定最大規模：L2）
- 災害リスクの視覚化等による防災意識の向上
- 適切な情報発信による住民の避難行動の迅速化
- 道路冠水の監視強化

■内水
- 雨水ポンプの整備等による浸水被害の低減（床下浸水に留める）

災害の種別と程度に応じた具体的な取組の位置づけ

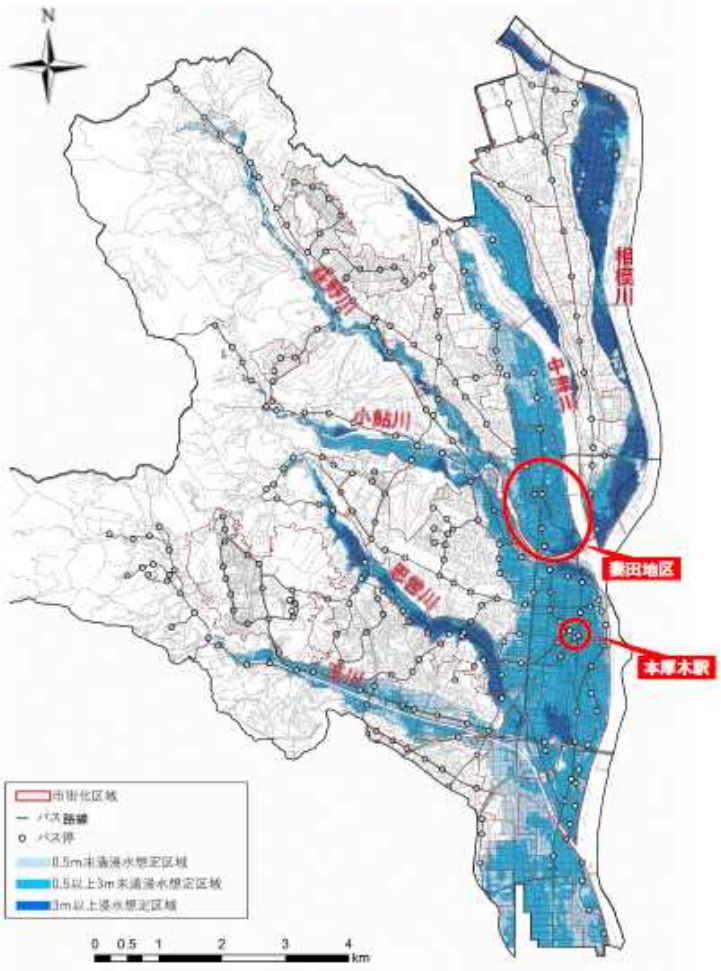
災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（厚木市）

国土交通省

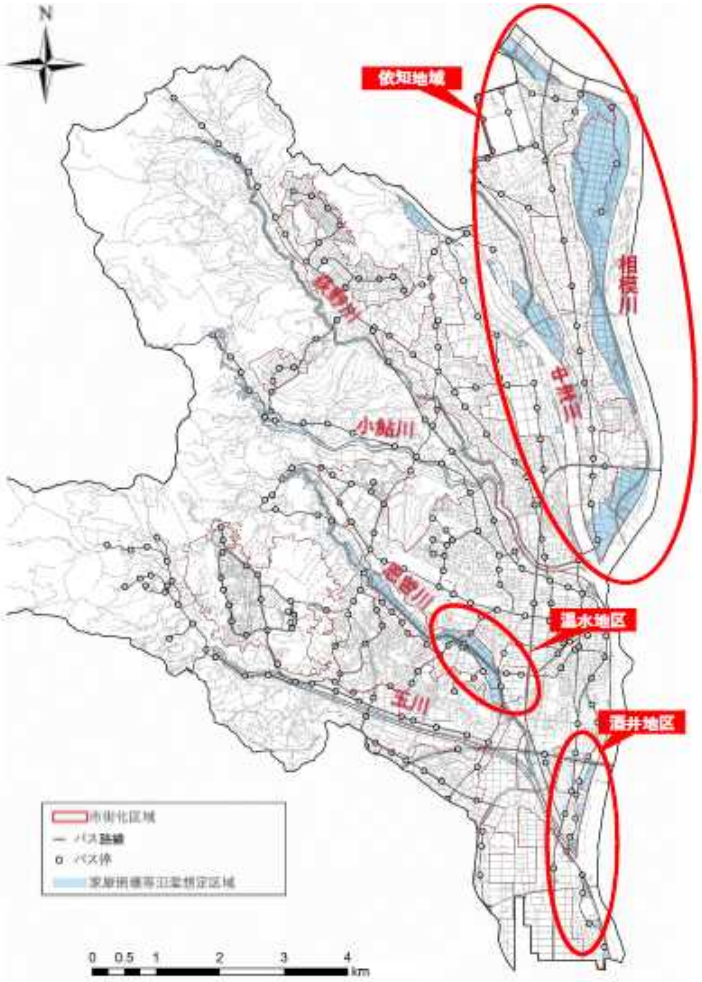
○市の東部を流れる相模川の洪水浸水想定区域が市街地の広範囲に指定され、市役所や主要駅が浸水のおそれ。
○そのうち、家屋倒壊のおそれのある区域も川沿いに広く指定されている地域が存在。

■位置図

■洪水浸水想定区域の状況
（想定最大規模）



■家屋倒壊等氾濫想定区域の状況
（想定最大規模）



災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（厚木市）

国土交通省

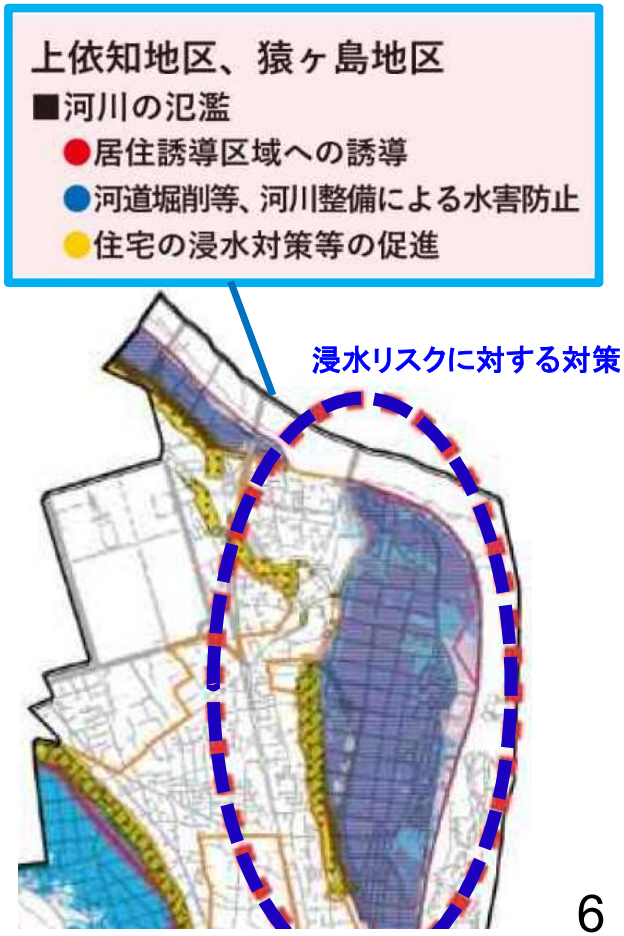
○相模川沿いに広がる家屋倒壊等氾濫想定区域における木造家屋の立地を詳細に確認し、該当範囲を居住誘導区域に含めないこととして安全なエリアへの誘導を図るとともに浸水リスクに対する河川整備や住宅における対策を防災指針に位置付け。

災害リスク分析

（木造住宅×家屋倒壊等氾濫想定区域）

居住誘導区域の設定

防災指針に定めた取組



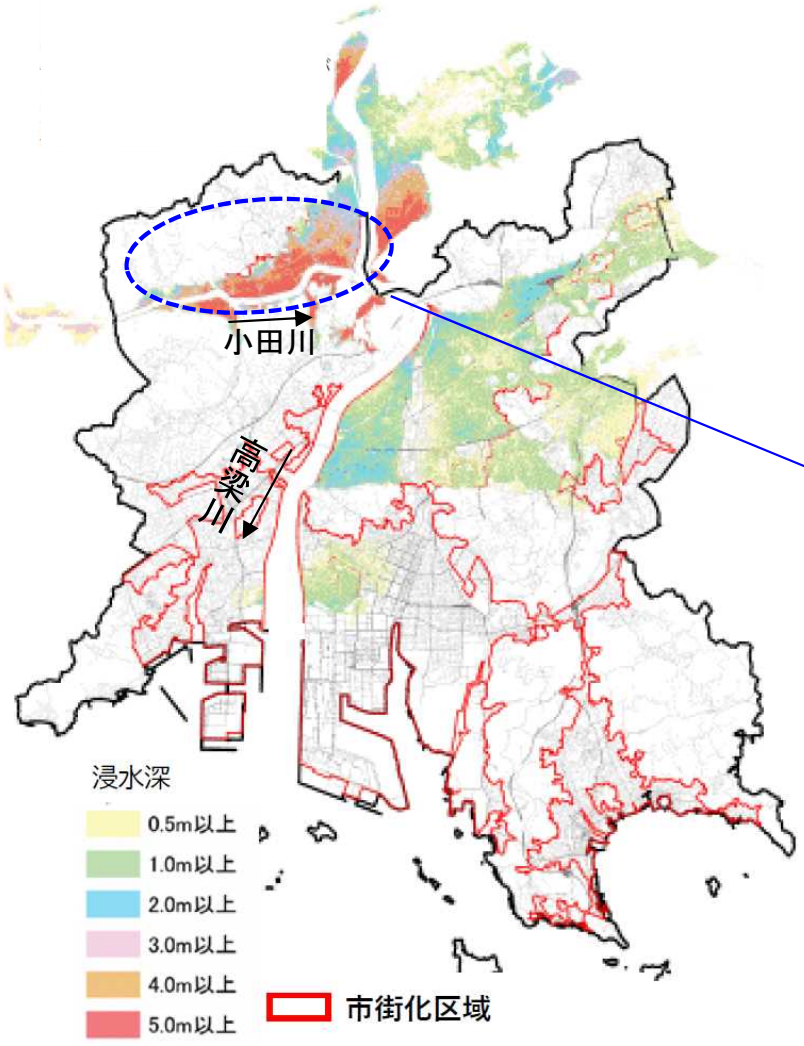
災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（倉敷市）

国土交通省

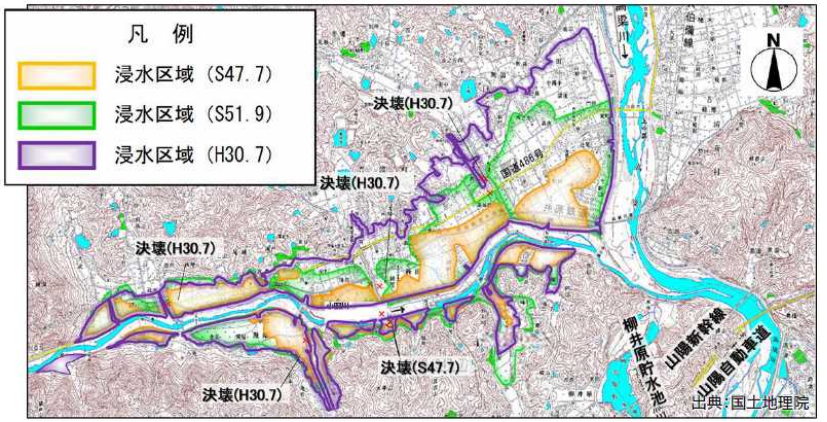
○市域を高梁川が流れ、洪水浸水想定区域が広く指定され、支川小田川との間に位置する真備地区では相対的に想定浸水深が大きい。
○真備地区では，平成30年7月豪雨で堤防決壊により甚大な浸水被害が発生。

■位置図

■洪水浸水想定区域の状況（計画規模）



■真備地区における過去の浸水実績



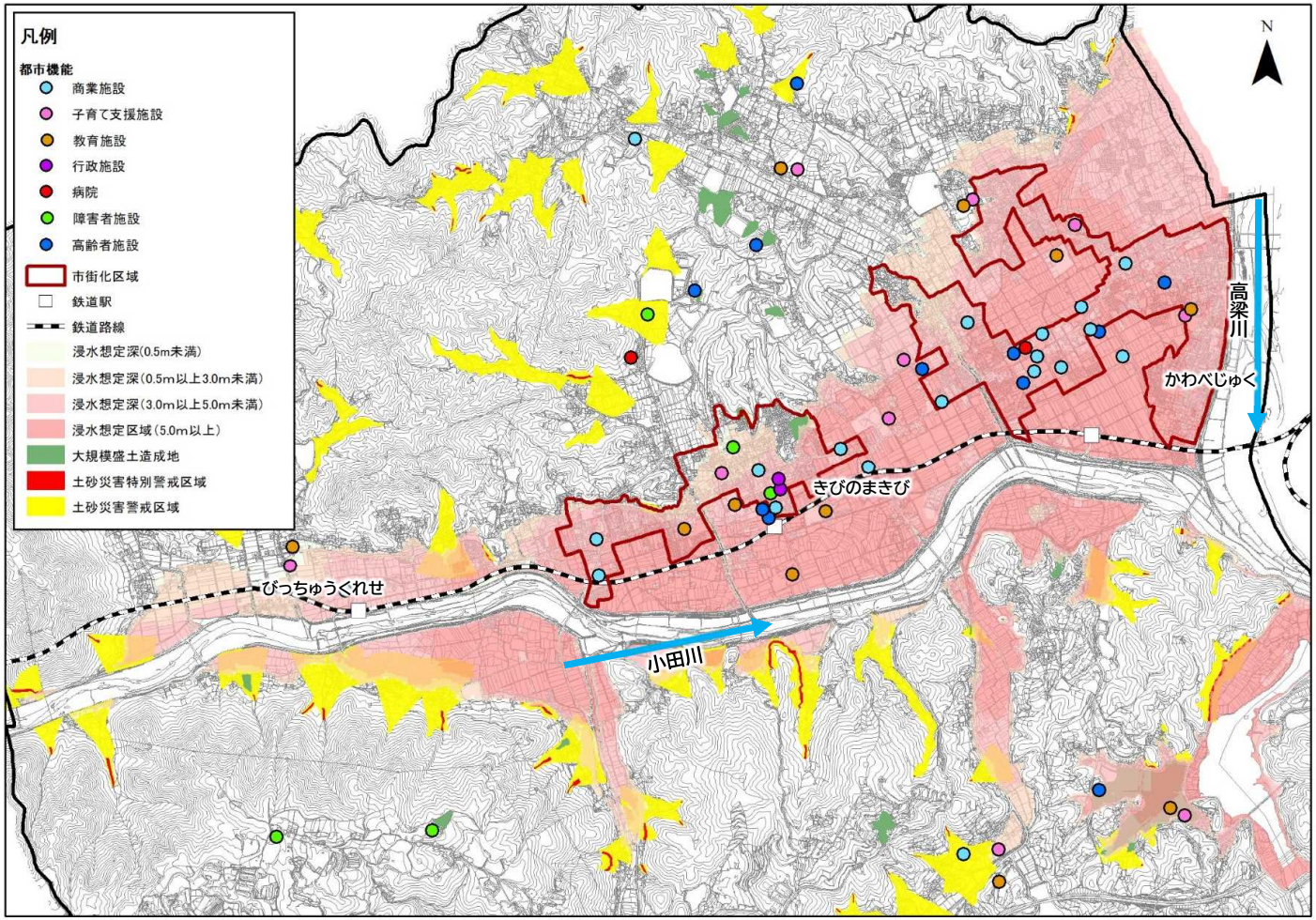
■H30.7豪雨での真備地区の浸水状況

災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（倉敷市）

国土交通省

○既に一定の都市基盤が整備された市街地や、公共交通の利便性が高く、人口密度が一定程度ある居住地が広がっていることなどから、災害リスクをできる限り回避、あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を「防災指針」に位置付け。

災害リスク分析（真備地区）（洪水浸水想定区域（計画規模）×都市機能）



安全性強化の取組

■土地利用規制（リスク回避）

- 浸水リスクが高い場所について、土地利用の規制や立地誘導の検討

■避難の実効性強化（リスク低減）

- 新たな避難地の整備や、緊急的に身の安全を確保する「浸水時緊急避難場所」の設定
- 狭隘道路の解消や水路転落防止対策
- 垂直避難を組み合わせた避難環境の整備
- 都市基盤や建築物等の耐水対策の推進

リスクの回避と低減の取組を組み合わせ浸水対応型のまちづくりを推進

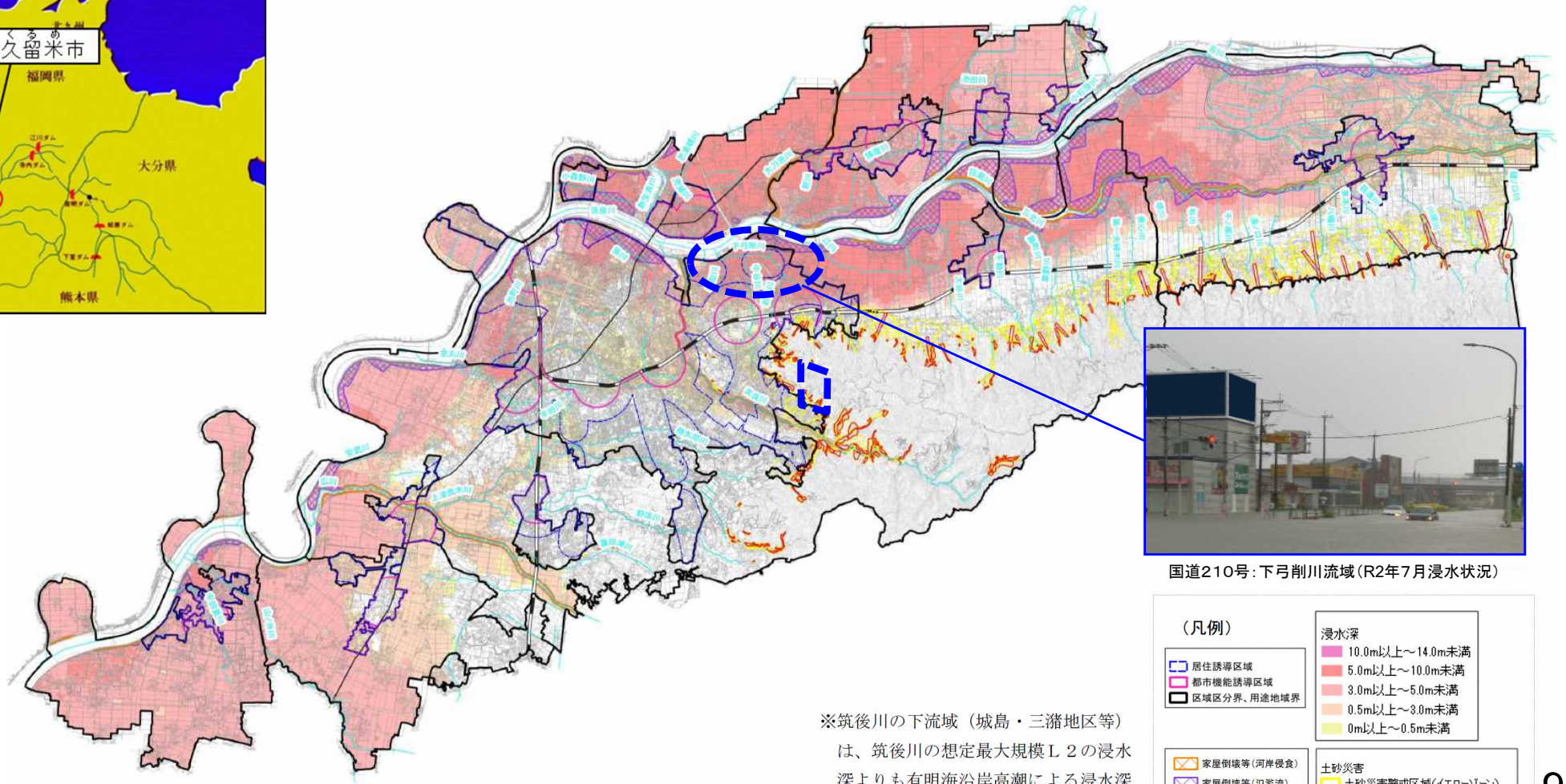
災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（久留米市）

国土交通省

〇市域を筑後川が貫流し、洪水浸水想定区域が広く指定。加えて、有明海の高潮浸水想定区域が広く指定され、洪水だけでなく高潮による浸水への対応も課題。
〇平成30年から4年連続で大雨による顕著な内水浸水も発生しており、居住地の安全性強化が急務。

■位置図

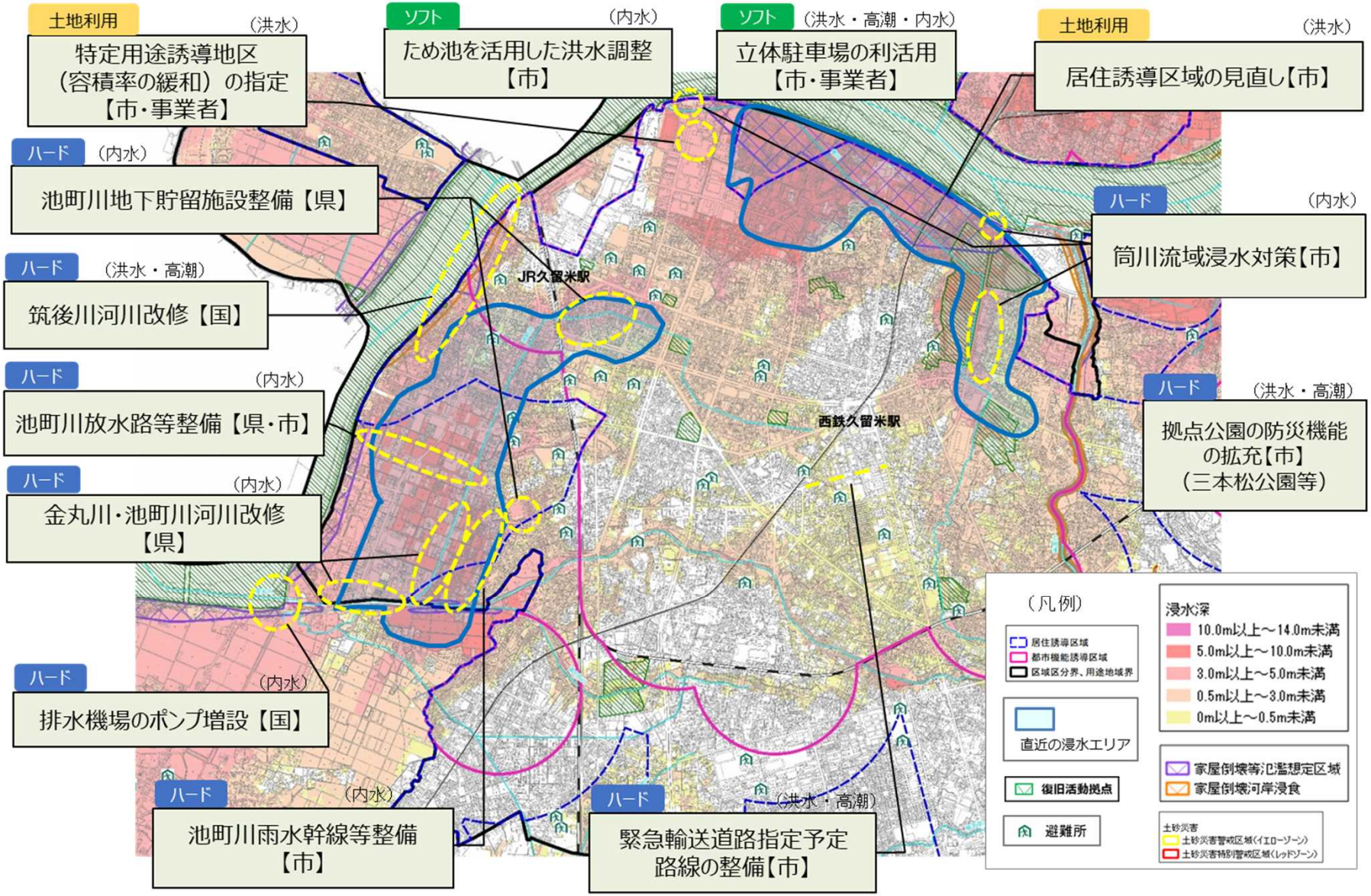
■洪水浸水想定区域と高潮浸水想定区域の重ね合わせ（想定最大規模）



国道210号：下弓削川流域（R2年7月浸水状況）

※筑後川の下流域（城島・三潴地区等）は、筑後川の想定最大規模Ｌ２の浸水深よりも有明海沿岸高潮による浸水深の方が大きい

災害リスク分析を活用した防災指針の検討事例（久留米市）

国土交通省

○災害ハザード情報や過去の浸水被害を踏まえ、中心市街地において、リスクの高いエリアを居住誘導区域から除外するとともに、浸水リスクを低減する河川整備・雨水貯留施設整備や、民間と連携した避難先の確保などのソフト対策を網羅的に防災指針に位置づけ。